

センター機関評価個票（終了時評価）

事業名	平成23年度地球規模課題 国際研究ネットワーク事業 (国際研究ネットワーク形成等の推進)	事務局担当等	農林水産技術会議事務局国際研究課 (総括・企画班、推進班)
		連携する行政部局	
事業実施年度	平成23年度	総事業費(千円)	2,898千円(見込)
事業の概要			
<p>本事業の目的は、地球規模の様々な課題に向けた取り組みを強化するため、我が国の研究機関・研究者のネットワーク形成を推進しつつ、我が国が目指すべき国際研究の取組の方向性を提言することである。このためセンター機関を設置し、国際研究の将来の方向性の提言、国際研究を推進するためのシンポジウム等の開催、専用ウェブサイトの管理によるこれら国際共同研究の成果等の幅広い普及を行う。</p>			
事業の最終の到達目標			
<p>農業分野の国内研究機関等が参画する国際研究ネットワークを形成し、ネットワークに参加する国内研究機関等が相互に知識・経験を共有するとともに、我が国が目指すべき国際研究の取組の方向性を示す。</p>			

【項目別評価】	
1. 事業の意義	ランク：A
<ul style="list-style-type: none"> ・アジア、アフリカのコメの生産は重要であり、我が国の関連成果を結集して共同研究することの意義は高い。 ・G20農相会議の行動計画でも取り上げられたコメの研究開発、CARD、GRiSPなどをテーマとしてシンポジウムを行ったことは、先導性があり、社会、経済的意義は非常に高い 	
2. 事業の目標の達成度及び今後の達成可能性	ランク：S
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回収率については、126名(35%)から回答が寄せられ、解析により海外の研究者・機関との連携を深化させる際の問題点等が明らかとなった。 ・国際研究を推進するためのシンポジウムは、JIRCAS国際シンポジウム2011との合同開催によるシナジー効果により、海外からの参加を含め174名の幅広い参加を得て、議論が深まった。 ・少ない予算との対比では、予想以上の達成度。 	
3. 事業が社会・経済等に及ぼす効果の明確性	ランク：A
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートやシンポジウムの結果、人材育成等につき明確な課題が分かる等、今後の行政施策に有益な示唆を得た。 ・IRIS-AFFは、農林水産分野の国際研究に関する情報を包括的、網羅的に閲覧できる国内初のサイトであり、国際研究に関する最新の情報や国際共同研究の成果等の幅広い普及に貢献。 	
4. 事業運営方法の妥当性	ランク：A
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート、シンポジウム、ウェブサイトと予定通り実施され、運営方法は妥当。JIRCASシンポジウムと合同開催でシナジー効果が認められた点は高く評価。 ・IRIS-AFF管理マニュアルを作成していることは運営の効率に資するもの。 ・実施体制、運営は十分効率的なものと考えられる。ウェブページ作成技術も極めてすぐれている。 	
【総括評価】 ※総括評価の欄は、事業運営委員会において記載	
ランク：S	
1. 事業の実績に関する所見	
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査から貴重なデータが得られ、ウェブサイト等を通じて今後活用が期待できる。 ・全体として事業は予想以上の成果をあげた。 ・現段階では目標を十分達成したとみられるが、今後のシステムの活用方法が必ずしも明確でない。 	

2. 今後検討を要する事項に関する所見

- ・アンケートの結果、シンポジウムの議論を着実に実行に移す方策を考えて欲しい。
- ・本事業で取り組まれている3つのテーマに基づく国際共同研究についても、広報活動を行うなどして、有機的連携を行うことが望まれる。
- ・ウェブサイトの継続的な運営、コンテンツ更新の仕組み、ウェブサイトの利用しやすさ等に改良を続けてほしい。

(注) 「ランク」の欄には、本要領の別表1に定める総括評価基準（S・A・B・C）の中で最も近いと考えられるものを選択し、記載。

センター機関評価の評価項目及び評価基準（終了時評価）

評価項目（注1）	評価項目に含まれる事項（注2）	評価基準
1. 事業の意義	①事業の科学的・技術的、社会・経済的意義	S：事業成果の独創性、革新性、先導性又は実用性は事業開始時を上回ると認められ、意義は非常に高い
		A：事業成果の独創性、革新性、先導性又は実用性は事業開始時と同様と認められ、意義は高い
		B：事業開始時と比べて、事業成果の独創性、革新性、先導性又は実用性は低下しており、意義はやや低い
		C：事業開始時と比べて、事業成果の独創性、革新性、先導性又は実用性は著しく低下しており、意義は低い
2. 事業の目標の達成度	事業の目標の達成度（ネットワーク構築に向けた活動、コンソーシアムの研究成果等の普及に関する成果、研究者・機関とのコミュニケーション活動等の実績を含む）	S：事業の目標を超える成果をあげており（又は当初の見込みを上回る進捗で進捗し、事業の目標を超える成果が期待できることから）、達成度は非常に高い
		A：事業の目標は概ね達成（最終到達目標に対し80%以上の達成率）しており（又は概ね当初の見込みのとおり研究は進捗しており）、達成度は高い
		B：事業の目標をやや下回る成果（最終到達目標に対し80%未満の達成率）となっており（又は当初の見込みをやや下回る進捗で研究は進捗しており）、達成度はやや低い
		C：事業の目標をかなり下回る成果（最終到達目標に対し、50%未満の達成率）となっており、（又は当初の見込みをかなり下回る進捗で研究が進捗しており）達成度は低い
3. 事業が社会・経済等に及ぼす効果の明確性	① 社会・経済への効果（国際研究ネットワーク形成への貢献、国内研究機関の連携の強化、人材育成等）の明確性 ② 事業成果の活用方法の明確性（行政施策への貢献等）	S：①及び②ともに十分に有しており、かつ、当初の見込みを上回る効果が期待されることから、明確性は非常に高い
		A：①及び②ともに十分に有しており、明確性は高い
		B：①及び②のうち一方が不十分であり、明確性はやや低い

		C：①及び②ともに不十分であり、明確性は低い
4. 事業運営方法の妥当性	①進行管理（評価の実施等）の妥当性 ②投入された資源（予算）の規模及び配分の妥当性	S：①及び②ともに明確であり、かつ、費用面で計画以上に効率的に研究を推進しており、妥当性は非常に高い
		A：①及び②ともに明確であり、妥当性は高い
		B：①及び②のうち一方が不明確であり、妥当性はやや低い
		C：①及び②ともに不明確であり妥当性は低い
<p>[総括評価基準]（注3）</p> <p>1～4の観点を踏まえ、事業全体の総合的な評価として、次の4段階で評価を行う。</p> <p>S：事業は予想以上の成果をあげた。</p> <p>A：事業は概ね目的を達成した。</p> <p>B：事業は目的の達成がやや不十分であった。</p> <p>C：事業は目的の達成が不十分であった。</p>		

(注1) 各評価項目と「必要性」、「効率性」、「有効性」の観点との対応は、必要性は1、効率性は4、有効性は2及び3となる。

(注2) 事業内容により該当しないものについては、それを除外して評価を行う。

(注3) 1～4の評価項目の総括評価基準への反映は、原則として以下のとおりとする。

- ① 1～4の評価項目のうち1項目以上がCである場合、総括評価基準はCとする。
- ② 1～4の評価項目のすべてがB以上である場合（③、④の場合を除く）、総括評価基準はBとする。
- ③ 1～4の評価項目のすべてがB以上、かつ、3項目以上がA以上である場合（④の場合を除く）、総括評価基準はAとする。
- ④ 1～4の評価項目のすべてがA以上（うち1項目以上がS）である場合、総括評価基準はSとする。

地球規模課題国際研究ネットワーク事業

対策のポイント

国際研究に取り組む我が国研究機関のネットワーク形成を推進するとともに、海外機関との国際共同研究、ワークショップ開催等を推進します。

<本事業がもたらす効果>

- ・ 国内ではセンター機関を中心とした国際研究ネットワークが形成されます。また、国際共同研究等を通じ、研究テーマ毎に海外機関とのネットワークが形成されます。
- ・ 国際共同研究に取り組むこと、国内研究機関の連携により知見、経験等が共有されること等から、相乗効果によって、我が国の国際研究の取組がレベルアップされます。
- ・ 研究成果を確実に得るため、外部評価も行いつつ、3年以内の中期的な研究開発に取り組み、課題解決に貢献します。また、海外機関と協力することから、海外への成果の普及も期待されます。

政策目標

国際研究のネットワーク形成、地球規模課題の解決に貢献

<内容>

- (1) 国内研究機関のネットワーク化を図るため、国際研究に関するセンター機関を設置し、当該機関を中心に、①国際研究における技術的な目利き、将来予測、②国際共同研究の成果の普及、③シンポジウム開催、等に取り組めます。
- (2) 分野毎の課題解決を図るため、中心的な役割を担うハブ機関と複数の研究機関が一体となったコンソーシアムを形成し、国際共同研究、海外現地調査、国際ワークショップ等の開催、等に取り組めます。

[担当課：農林水産技術会議事務局国際研究課（03-3502-7466）]

地球規模課題国際研究ネットワーク事業

農林水産省

- ・取組方針、研究課題の決定等
- ・関係国との連携等



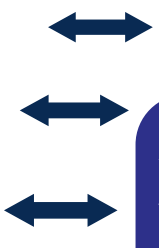
国際研究ネットワークの形成等の推進

◎国内研究機関(センター機関)

- ・国際研究分野における技術的な目利き、将来予測等
- ・国際研究に関するシンポジウム開催等
- ・コンソーシアムの研究成果の幅広い普及



国内研究機関



国際共同研究等の推進

◎コンソーシアム

- ・国際共同研究、海外現地調査、国際ワークショップ開催等

- 国内研究機関(中核機関)
- 参加研究機関

国際共同研究等

○関係国研究機関等

- ・共同研究、協力等

ネットワークとして
情報共有、連携

国際共同研究等におけるコンソーシアムの研究テーマ及び研究課題

食料安全保障分野

- 我が国の食料安全保障に貢献する技術の開発
・ゲノクス利用によるイネの昆虫媒介性ウイルス病抑制のための研究開発

環境・資源分野

- 農業分野における温室効果ガスの排出削減・吸収に関する技術開発

- ・東南アジアにおける畜産・水田からの温室効果ガス排出削減技術の導入とその評価

バイオマス資源の持続的生産・活用技術の開発

- ・食料安全保障強化に向けたサゴヤシ澱粉の持続生産と利活用に関する戦略的総合研究プロジェクト

